

働こう障害者も 働けるんだオレたちも

こぶしだより

1999年

7月23日発行

発行

こぶしの会

宇都宮市柳田町1401

TEL 028-662-1911



美味しくできるかな!?



リサイクル班でミニトマトを育てています。
美味しいトマトができるといいね。

1番手前 池田 善穂さん

2列目右から 新田 忠弘さん、滝口 功一さん

阿部 仁美さん、野口 雅史さん

星野 健さん

3列目右から 鬼頭 友章さん、木村 浩子さん

●就労前の取り組みを始めて●

こぶし作業所

「作業所なのに就労前？」と思われる方がいるかも知れませんが、『どんなに障害が重くても門戸を閉ざさない』これはこぶしの理念の一つですが、二〇年近く実践するなかで特にここ数年、仲間の重度化がはつきりしてきています。「仕事」というのは拘束性がありますので、やはりそれなりの力が備わってないと、苦痛に感じることが強くなってしまふのではないのでしょうか。もちろん、仕事を通して得る達成感、喜びは、遊びで感じるものとは違いますし、大きな自信につながる尊いものです。しかし、いきなりそれを重い障害の仲間を求めるのは酷ですし、決して一方的に強制するものでもありません。まずは、『こぶしに行くのが楽しい』と思える何かが持てるかどうかだと思います。

「重い」と言っても中身は様々です。何も意志表示をしない人、自閉的傾向が強く人と上手に関われない人様々。特に重いとされている仲間は常に受け身です。これは仕方がない一面もあると思います。家族も健全者の生活ペースや学校も含めた社会的なペースに身をおくわけです。一〇分で食事を済ませたり、学校も通う年数が限られる、そんなとてつもなく早いペースの中に居るのですから、頑張つて何かを伝えよう、何かをやろうと思つても周囲に待つ余裕がない状態です。結局、周囲の人たちが先取りをしてしまう、その時間や経験が長いほど「指示待ち」になつて受け身になり作業所に来てても指示が無いと行動できなくなっている。それが特徴的な事だと思えます。

そこで、就労前の取り組みが大切になってくるのです。気持ちを揺さぶるところから始まり、具体的には散歩に出掛け、仕事場から離れ開放的に浸る、これを長く取り組んできました。散歩といつてもただ歩くのではなく、風を感じたり、景色を見たり、もちろん職員が意識的に声を掛けます。近くの公園に行けばボールで遊んだり、時々おやつをほおぼったりと何かと楽しい目的を持たせました。するとある日突然、それまでオウム返しでの話がほとんどだった仲間が風を感じ、「うわあ、気持ちいい。」と自分の気持ちを率直に言葉で表したりと変わったことができました。継続的に取り組む中で、仲間の内面に蓄積された感情があ

ふれ出た瞬間と言えるでしょう。

また、この楽しみが直接労働意欲へ結びつく仲間もいれば、なぜか散歩となると声を出し落ち着かなくなるなど、少なからず一人々々に何らかの変化が見えてきました。



草むしり頑張つてね！ 右から星野健さん、滝口功一さん

しかし、就労前の取り組みだけに集中できないのが作業所の悩みです。他の作業との関係で職員体制が変わったり、作業が忙し

いは、納期に間に合うよう仕事をこなしたりと、その時々々の状況で予定通りにできないことがあります。せつかくの取り組みも途切れては、仲間が可哀想です。重い障害を持つ仲間を受け入れるこぶしにとつても、重要なことです。

数々の訓練と反省を踏まえ、こぶし作業所は今年度、新たな作業班編成（こぶしで重いグループのリサイクル班をさらに二つに分け就労前と作業中心グループにした）と職員体制（複数）で、就労前の取り組みを以前よりさらに明確にし、まず、午前を完全に「就労前」の時間に当て、さらに仲間の興味、関心がどこにあるのかを探るため、散歩以外にもバリエーションをつける事にしました。そして、リサイクル班の仲間と一緒に、一週間のスケジュールを考え、月曜日は音楽・火曜日、木曜日は散歩・水曜日は陶芸、金曜日は園芸と決め、作業中心の仲間からは、「ぜひ散歩はみんなで行きたい。」との要求も出され、それを大切にすることで同じ作業班の仲間からも「就労前」を認めてもらいました。これはどうしても遊び的な楽しいことですから、他の仲間からすればうらやましいのです。ましてや同じ作業班となればなおさらだと思っただので、認め合う関係を作り出し、大切にしました。

音楽は歌というより楽器を使って、とにかく音を出すことから始めています。今では自分の楽器が一人一人に合って、ピアノを職員が弾くのを見て真似する様に両手で弾く仲間もいます。散歩は近くの公園まで、麦わら帽子をかぶりシートとポール、麦茶等を持って出掛け、公園ではそれぞれ好きに過ごします。ポール転がしも職員とやっていたのが、いつの間にか仲間同志でも楽しめる様になったり、ブランコ・すべり台で遊ぶ仲間もいます。陶芸はポラントエアさんと交流しながら、一味違った雰囲気を楽しんでいます。園芸は、みんなで年間を通し花を育てようと始めました。花は分かり易いミニヒマワリと、花だけでは面白くないと、ミニトマトも育て、もう赤くおいしい実がなっています。水をあげるのも仲間が係りを決めてやっています。そんな一週間を繰り返す中、仲間達の表情は本当に生き生きし、笑顔がとにかく多く見られるようになりました。保護者からも「変わった。」と声が開けるほどです。今では、決して大げさでなく、こぶしの元気の源がリサイクル班にあると言つて良い程、活気のある雰囲気も創っています。

最後に、どんな仲間でも自分の心で「楽しさ」を実感し、様々な夢を抱いて通う事のできる『こぶし』づくりを、仲間と一緒に

に同じ空気、時を大切にしながら頑張つて行こうと思う今日この頃です。

『お互い 自分の気持ちで生きようぜ！』

▲アンケートにご協力
お願いいたします▼

今回、初めてこのこぶしだよりにアンケートを添付させていただきました。

毎回楽しみにして下さっている皆様のご期待にそえなくてまことに申し訳ございません。そこで、編集委員会では、皆様を知りたいのか、どんな記事を読みたいのか、あるいは皆様から方からの意見を基にこれからのこぶしだよりを毎月発行していくかと思ひ、アンケートという形で実施させて頂いたことにしました。

お忙しいかと思いますが、アンケートに答えていただきますよう、よろしくお願ひします。

なお、アンケートはお手数ですが、お近

くの作業所の方まで届けて下さいますようお願いいたします。

第六回けやきまつりが盛大に行われる！！

分場から認可施設となり

初めてのけやきまつり

後援会の立場から・・・

当日の雨の中、けやきまつりにご来場下さった皆様、ありがとうございます。

今年は、後援会から模擬店・ミニバザーを出しました。

近隣施設の方々の出店によって盛り上げて頂きました。模擬店をご利用していただいた皆さん、お味の方はいかがでしたか？ご意見、ご感想を頂けたら幸いです。

地域の婦人会の方々、講演会会員の方々、保護者会、JLC、学生さん、そして様々なつながりからのお友達。たくさんの方々のボランティアの力が集まりました。ご協力、本当にありがとうございます。

それぞれに不慣れで、戸惑いもあったと思いますが、楽しく取り組んで頂けたでしょうか。

今回は仲間も一緒に取り組める内容を取り入れられればと思っております。

けやき作業所後援会は、この作業所を支えていくために様々な事業活動を行っています。これからも、たくさんの方々にはけやき作業所のことを、知って頂きたいと思っています。



みんな一生懸命歌っています。練習の成果がでたかな！？

仲間達は

どうだったのでしょうか？

昨年開所して大きくなった

けやきでのステージでした。

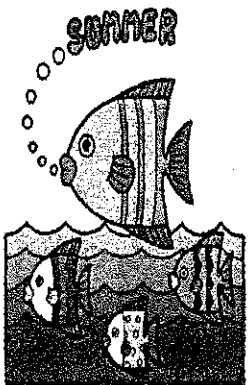
待ちに待ったけやきまつり。仲間たちはこの日のために朝の会、帰りの反省会時にステージの練習を重ねてきました。

当日の朝もお客様が来場する前に、最後の練習をし、本番に備えました。

仲間たちは内心、自分たちの出番を待つてドキドキしながらも、目の前で繰り広げられるステージをじっと見守って（時には3Pノリノリになりながら）いました。

模擬店で色々堪能した後、いざ本番！

仲間達の思いをインタビュアー・歌にぶつけ、観客から盛大な拍手を頂き、大成功のうち席に終わりました。仲間達も、ステージから席に戻るときの表情に満足感がうかがえました。



こぶし作業所に東京福祉専門 門学校から実習生がきました！

約一ヶ月間の実習を終えて

小林 智美

六月八日から七月三日までの一ヶ月間、私はこぶし作業所で実習を行わせていただきました。

私は実習中に「職員の方々や仲間の方々がとても仲が良く、お互いを尊重し合っている施設」だと感じました。そう感じたのは、実習一日目の光景を目にした時でした。

それは、石けん班で実習を行うときに職員の方が仲間の方に作業を教えてもらっているのです。今までボランティアや実習で訪問した施設で職員が利用者に作業を教えてもらっているという施設はありませんでした。

けれども、こぶしでは新しく入って来た職員の方に、以前からいる仲間の方が作業を教えているのです。一見意外な光景に思いましたが、普通に考えると「新人の社員に以前からいる社員が仕事を教える」と言うことは当たり前の事なのです。こぶしはその当たり前のことが、当たり前に行われていたのです。それが、こぶしの職員と仲間が仲良く作業に協力し合える楽しい施設

でいるポイントなのかも知れません。

そして、施設を利用する「利用者」ではなく、一緒に作業を行う「仲間」という呼び方も仲間を一人の人間として尊重していることを象徴しているものだと思います。私も、これから先、障害を持った方々に対して「仲間」という気持ちを持ち続けたいと思います。

このような、皆さんで作業に協力し合い仲間が良い施設ですから、私も楽しく充実した一ヶ月の実習を行わせていただきました。これからもボランティアなどでおじやますることもあると思います。その時はまた御指導よろしくお願ひ致します。

ありがとうございました。



けやきまつりの目玉である、福引き抽選会ではこぶしの仲間にあたりが多く出ていました。写真はあたって喜ぶ横山 幸生さん

こぶしの視点

第5回

こぶしは昨年、けやきはつい先日、初めての保護者懇談会を実施しました。内容は、以前このたよりで記した(?)事がありました。忙しい中、半数以上の方が時間を作り、作業見学、担当職員との懇談に応じて下さいました。

仲間の姿を、作業所と家庭と、できるだけ多面的にとらえたい、という事と同時に、職員として、家族、保護者の想いや願いを直接知ること、そして信頼関係、共感関係を築く一歩にしたいというねらいも持っていました。

以前というよりかなり昔、「仲間にとっての一番のプロは母親である。まず、謙虚にそこから学ぶ」との話を聞いたことがありました。本当にそうだと思います。私たちは“指導員”であるからと、知らないうちにどこか押しつけがましい態度になっているのでは・・・と反省することも度々です。

古い資料をめくっていたら、無認可時代の後援会ニュース(No2 S50、3、20号)の中にこんな手記を見つけました・・・。

“こぶし共同作業所(日曜作業所)ができた事を私は本当に喜んでます。こんなにうれしい事はないと思うほどです。長年、本当に心の底から望んでいた事なのです。

私が通園の施設が欲しいと思ったのは十年程前、東京から宇都宮に引っ越して来られた鶴野さんから、東京には「通園施設」というものがあるというのを聞いてからです。・・・

(中略、幼児期から通園できる施設を捜し始め、入所施設には入れたくないと捜し続け、やっと宇都宮市立の通園施設に入ったのが17歳)

結局、施設に入れるのがいやで、美江が17歳まで在宅し、その頃若葉園ができたので入園させました。それから2年8ヶ月。アツという間に20歳になり、どうしても卒園せざるを得なくなり、その時知ったのが「こぶし」の事です。家から通って働ける場所ができるなんて・・・。私は今、美江の為なら、こぶしの為ならと思うと、毎週街頭で募金を訴えるのが1番良い気分なのです。美江は今では、日曜日だけは(作業所のある日)早起きになりました。寄宿舎なんかもある作業所が1日も早くでき、毎日美江が通って行ける姿を見たいものです。”

無認可スタートから25年。教育権保障や働く権利を求める運動も随分大きくなってきました。しかし、障害児者を抱えての家族の不安な状況は基本的に余り変わっていないように思えます。

仲間の、そして家族、保護者の願いや想いをしっかり受け止められる心と力量を蓄えなければ・・・。初心にかえて・・・。

今もこのお母さんの街頭に立つ姿を忘れることはできません。

コブシノシテン

七月の予定

二十四日 休所

二十五日 休所

二十八日 フール招待
(けやき)

三十一日 職員会議
(こぶし)

八月の予定

一日 休所

五日 豊郷中体験学習

六日 フール招待
(けやき第二班)

七日 指導会議
(こぶし)

八日 休所

十三日～十六日

盆休み

二十一日 職員会議
(こぶし)

二十二日 休所

二十八日 休所

二十九日 日曜作業所

今月の愉快な仲間達！

七月からけやきの仲間になりました、諸橋 優子です！

一般就労の経験があり、六月から実習生としてけやきに通っていたのですが、七月一日付けで正式にけやきの仲間となりました。現在下請け班で作業をしています、仲間の話し相手になったり、面倒をみたりと毎日忙しく動き回っています。

そんな彼女の希望はパン屋さんで働くことです。将来働ける様、頑張ってください！

頑張っています！

こぶしの石けん班！

こぶしの石けんも取り組み始めてから3年が経ち、皆様のご協力もあり、ここまでやってこれました。

昨年には、石けんを炊く釜を一台増設し、仲間も三人体制から今年の四月に二名、新しく加わり、職員も二名体制で総勢七名になりました、石けんの大量生産が可能になりました。また、石けん班で作業を効率良く出来

るように小屋の模様替えについて話し合い、それぞれの意見を尊重し、少しづつではありますが必要なものを処分したりだとか整理をしています。

石けん班の一日は、大橋さんが一番はじめに小屋に来て窓を開けることから始まります。そして午前中は石けんを炊き、午後は炊き終わった石けんを粉碎し、それと同時に油を洗浄します。そして晁君の「お疲れ様でした。」という一声で作業が終了します。まだまだ石けん班は、改善すべき点があると思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

編集後記

梅雨も明け、いよいよ夏本番になってきました。この時期、気になるものにカビやバイ菌の事があると思います。私は今けやきのパン班にいますが、材料の傷み方なども、早くなっている気がしますし、時々ニュースから流れる食中毒の話題等はどうも他人事には思えません。普段の生活の中で「何となく」で行っている手洗い等も意識してやってみると案外、今までいい加減だったことに気づいたりします。ちょっとした気遣いで衛生的な生活を保てると思います。

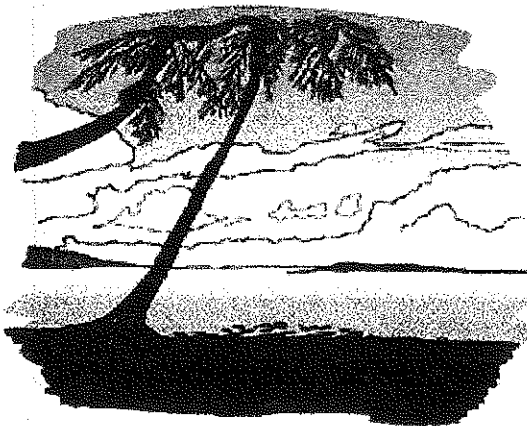
さて、今月号が皆様のお手元に届くのは、

キャンプの終わった後だと思えます。私は今回初めての参加になるはずだったので、あいにくの雨の影響でけやきはキャンプ中止になってしまいました。こぶしは予定通りに行ったかと思えます。来年こそは楽しいキャンプになればなあと思う今日この頃です。

けやき作業所 H・I

いよいよ夏本番です！

冷たいものとりすぎにはご注意ください！



今月は共同作業所連絡会賛助会員・こぶし作業所・けやき作業所の後援会会員拡大月間です。お知り合いの方でまだこぶし・けやきの活動等紹介されていない方がおりましたらこぶし・けやきまで連絡していただければこぶしだより等資料をお送りしますので下記までご連絡下さい。

＜共作連賛助会員については＞
共作連とちぎ事務局（けやき）まで
＜各作業所後援会員については＞
けやき作業所028-687-1040
あるいは
こぶし作業所028-662-1911
までお願いします。

共作連賛助会員・
こぶし・けやき
後援会会員拡大に
御協力下さい。

★こぶしだより編集委員会からのお知らせ★

◎ご意見・ご感想がありましたらこぶし・けやきまでお願いします。

◎特集してほしい記事があればお知らせ下さい。

社会福祉法人 こぶしの会
法人事務所・こぶし作業所

〒321-0902

栃木県宇都宮市柳田町1401

☎ 028-662-1911

FAX 028-662-1912

けやき作業所・デイサービスセンター

〒321-3304

栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244

☎ 028-687-1040

FAX 028-677-5789